

ニュース・レター

NO 2

2008年3月号

おやじ日本

大人の責任を果たすために、全ての大人がつながろう 集約すれば、大きな力に！

～(社)日本PTA全国協議会赤田会長と
おやじ日本竹花会長が対談～



対談中の竹花会長と赤田会長（おやじ日本事務所にて）

「おやじ日本」では、インターネットや携帯電話の有害情報から子どもを守ろうと、iS運動に取り組んでいます。具体的なアクションプランを立ち上げ、本格的な活動を実施する2008年の年頭にあたり、竹花豊・おやじ日本会長が、(社)日本PTA全国協議会会長赤田英博氏と、この問題について話し合いました。大人も経験したがないような現在の情報過多社会の中で、子どもを守るために何ができるのか、何をしなければならないのか、両会長は、それぞれの立場で協力しながら活動を進めていくことを改めて確認しました。

子どもたちを取り巻く社会環境に大きな危惧

竹花 (社)日本PTA全国協議会(以下日本PTA)の役員の皆さんと話し合う機会に恵まれてうれしく思います。各地のおやじの会はPTAのパートナーとして、あるいはPTAの活動を補う会として、活動しているのではないかと思うのですが、おやじ日本では、全国各地のおやじの会と連携し、情報交換の場を設けたり、新たに設立しようという動きを後押ししたりする活動を推進しています。全国の父親たちと手をつないで子どもの問題を解決したいと考えています。最近は、子どもの安全が損なわれる事件が続いているが、大人社会が子どもを大きな危険にさらしていると言えるのではないでしょうか。大きな危惧を抱いています。

赤田 なぜこんな事態になってしまったのか戸惑っています。おやじ日本が取り組んでいる、午前8時と午後3時に登下校中の子どもを見守ろうという「83運動」のような地道な取り組みを続けることはむろん大切です。しかし、これだけで、危険をすべて防げるとは限りません。子どもを守らなければならない大人たちが、どこかおかしくなっているのかもしれません。

竹花 大人社会が規範を失い、子どもを大切にするという思いがうすれている面はあると思います。一方で、子どもが加害者となって父母を殺す事件も数多く起こっています。

バーチャルリアリティと実体験の違い

赤田 子どもが、バーチャルリアリティの世界に没頭していることと関係があるのではないかでしょうか。

竹花 確かに、世の中全体、加速度的に、バーチャル的なものが広がってきていますね。

赤田 かつての子どもはある種の残酷さ、残虐性を、経験的に持っていました。昆虫や小動物を遊び半分で死なせた経験を持つ人は少なくないと思いますが、そういった経験を通して、バーチャルではない本当の世界で、命を感じていたわけです。だからと言って、今の子どもに同じような経験をさせるわけにもいきません。何より、保護者自身にもそうした経験が失われてきています。

竹花 今の子は、昔と比べると間違いない情報の洪水の中にいます。僕らが子どものころはちょっとした雑誌を見る程度でしたが、今は、情報の洪水を大人社会が作り出し、大人も子どもも区別なく巻き込んでいます。

(2ページに続く)

(1ページから続く)

携帯電話は多くの子どもが持つ道具

赤田 例えば、携帯電話や残虐性のあるテレビゲームが、子どもたちにも売り込まれているわけです。子どもを消費者という視点でしかとらえていません。もう少し子どもへの影響を考えて販売するわけにはいかないものでしょうか。

竹花 携帯電話は多くの子どもが持つ道具です。事業者も保護者も考え直さなければなりませんね。

赤田 子どもへの責任は一義的には親が負います。しかし、販売する側の責任もしっかりと訴えていかなければいけないと思います。

竹花 日本PTAはどんな意見を持っているのですか。子どもに携帯電話を持たせない方がいいと考えているのですか。

赤田 過去に「出会い系サイトへアクセスした経験」を中学生対象に調査したことがあるのですが、当時は、「寝た子を起こすな」と批判されました。警察からは大変な状況にあると言っていたのですが、保護者の意識と実態は大きくかけ離れていました。ここが出発点です。ですから、「子どもに携帯を持たせるな」と訴えるのは難しい状況にあります。まずは保護者に携帯電話の恐ろしさを知ってもらい、保護者の責任意識を高めるのが先です。

竹花 先日、首都圏の中学校に招かれ、生徒とその保護者の前で講演しました。その場で聞いてみると、2、3年生のほとんどが携帯電話を持ち、1年生でも6割ほどが持っていました。では、1ヶ月の経費はいくらかと聞くと、ある1年生は8000円だと答えました。支払いは父親だと言います。決して安い額ではありません。持たせないことは難しくても、経費について子どもにもっと考えさせてよいのではないかでしょうか。

赤田 保護者が子どもに、なぜ安易に携帯電話を持たせるかと言えば、私たち自身が携帯電話の経験に乏しいからだと思います。逆説的な言い方ですが、子どものときから携帯電話に親しんでいれば、その怖さを、知るべくして知ります。私たちの世代は、携帯電話そのものをよく分かっていない人が多くて、そのため、怖さも分かっていないのではないでしょうか。

フィルタリングソフトは保護者の責任で



おやじ日本 竹花会長

竹花 東京都副知事だった3年前ごろから何とかしないといけないと思っていました。しかし、努力した割に状況はあまり変わっていません。わずかに改善されたのは、携帯電話事業者が子どもに携帯電話を売るときには、有害情報を遮断するフィルタリングをつけることを原則にしようという動きが出てきたことですが、「フィルタリングがついたものでないと絶対に売らない」という毅然とした態度は見られません。

赤田 子どもへの携帯電話販売でフィルタリング付きを原則としても、最終判断は保護者に委ねられています。保護者がフィルタリングを解除するよう求めれば、フィルタリングは付きません。保護者の責任は以前よりも大きくなつたと言えるでしょう。

竹花 保護者には保護者なりに、子どもを説得できない事情があるわけです。子どもから「友だちはフィルタリングのついていない携帯電話を持っている。自分がフィルタリング付きでははずかしい。仲間はずれにされる」などと訴えられると、保護者としては「うちの子どもに限っては、そんなに悪くは使わないだろう」と信じたくなりますね。

赤田 「お父さん、お母さんは、僕、私を信用しないのか」と言われる場合もあるでしょう。すると、「信用しているならフィルタリングはいらないだろう」ということになります。

竹花 携帯電話事業者の取り組みを促すばかりでなく、我々の側で本気になって取り組む必要があります。

赤田 日本PTA60年の歴史をひもとくと、不買運動など強力なことをやっていたこともあります。そこまでやらないにしても、1000万人の会員が1つの方向に向けて声をあげれば、かなりのインパクトがあると思います。

竹花 うれしい話です。携帯電話の料金を払うのは保護者なのだからというメッセージを発することで、携帯電話の問題は大きく変わるものではないでしょうか。



携帯電話が会話のきっかけになることも

岡田（日本PTA・滋賀県会長）我々も携帯電話はいらないと思っています。しかし、携帯電話が家族の会話のきっかけになることもあります。私は、子ども4人と妻と私、合わせて6人分の携帯電話代を払っています。そこで、携帯電話料金の明細書が届くと、子どもたちと面接をするのです。「パケット利用が多いのはなぜか」とか、「1人5000円を超えたなら、その分をお父さんに返してちょうだい」とか。親子の会話が希薄になっていると言われますが、携帯電話のことで会話が増えます。

竹花 相当の金持ちですね（笑い）。いや、そういう意見はたくさんあるでしょうし、いろいろな考え方を集約すれば大きな力になるのではないでしょうか。

赤田 そうですね。これから、発信の仕方を考えていきたいものです。

日本PTA 赤田会長

大人が有害情報のフィルター役に



熱心に語り合う参加者

竹花 「おやじ日本」としてはこうした動きを支援したいのです。会員の中にも、携帯問題に取り組んできた経験を持つ人がいます。

永井 私はおやじ日本のiS運動担当副会長として、学校現場などで危険性を訴える取り組みを続けています。

竹花 おやじ日本では、iS運動を今年から全国に広げようとしています。iSとはインターネットセーフティの意味で、地域安全運動のインターネット版です。インターネットについて学び、話し合い、関係者間で手をつなごうという運動です。

保護者が手をつないで子どもの要求にどう応えるか考えたいのです。できたら、PTAとも一緒にやってこの運動を広げたいものです。事業者や官庁へ要望することも大事です。草の根でその力を作り出しましょう。

赤田 大人自身が有害情報のフィルター役を果たそうという意識を持ちたいものですね。一緒にがんばりましょう。

2008年1月16日（水）におやじ日本の事務所で行われたこの会談には、日本PTAとおやじ日本の役員も同席し、子どもたちの問題について活発な意見交換を行いました。

（参加者） 日本PTA 赤田会長（秋田） 梅田前会長（岐阜） 加藤副会長（長野） 岡田副会長（滋賀） 尾崎副会長（広島市） 木村専務理事（群馬） 曽我常務理事（熊本） 坂口常務理事（大阪） 仲野前大阪市P会長 堀前茨城県P会長 栗原札幌市P会長
おやじ日本 竹花会長 永井副会長

おやじ日本発 インターネットセーフティ運動

安心もケータイさせよう！ iS 運動

立ち上がりおやじ！

ケータイのこと “知ろう、話そう、手をつなごう”



i はインターネットの i 、S はセーフティの S 、地域安全運動のインターネット版です。

携帯やインターネットの新たな危機から子どもたちを守り、子どもの被害を未然に防ぐために、

おやじ日本ではアクションプランを作成しました。全国のおやじたちと手をつなぎ、全力を挙げて実施します。

おやじ日本は iS(アイエス)運動を次のようにすすめます

(1) iS 運動の象徴となるロゴを提供します

ポスター、カンバッチ、シールなどを製作し、提供します。また、ご賛同いただける方には、「おやじ日本」ホームページから自由にダウンロードしていただけます。

(2) 各地のおやじの会をはじめ、子どもの問題に関わる多くの団体に、「一緒にやりましょう！」と呼びかけます

(社)日本PTA全国協議会、(社)全国高等学校PTA連合会、JC、(社)全国少年警察ボランティア協会、(社)全国少年補導員協会、ネット社会と子どもたち協議会、日本ガーディアン・エンジェルス、(財)マルチメディア振興センター 全国おやじサミット実行委員会、ほか

(3) ケータイ・インターネット問題のフォーラムを開催、支援します。

「おやじ日本」として各地でフォーラムを開催するほか
パネラー等を派遣します。

(4) ケータイ・インターネット問題の情報を提供します。

「バーチャル社会がもたらす弊害から子どもを守るために」報告書など有用な情報を提供し、また、お知らせします。

(5) ケータイ・インターネット問題の専門家を紹介・派遣します。

「おやじ日本」、関係団体、NPO 等からの語り部を紹介・派遣します。

- iS 運動イメージデザインはじめポスター、シール、缶バッヂなどの関連グッズは(株)電通 社会貢献部 CSR 室のご協力をいただき、準備中です。
- その他、フォーラム開催や、情報提供、講師の派遣に関しては、おやじ日本事務局まで、お問い合わせ下さい。

あんしんもケータイさせよう



internet Safety

インターネット安全運動
iS 運動

ケータイ・インターネットの落とし穴から子どもたちを守るために。
大人はその危険性をよく知り、子どもとよく話し、そしてともに手をつないで一汗かこう。それが iS(アイエス)運動のマインドです。

おやじ日本

<http://oyaji-nippon.org/XOOPSCatalog/>

internet Safety

インターネット安全運動
iS 運動

おやじ宣言～立ち上がり！おやじ～

携帯・インターネットの使用により子どもが犯罪に巻き込まれ、犠牲者となる事件が続発している。平成19年7月には、携帯メールのいじめが原因の一つとなって神戸市の高校生が自らの命を絶った。子どもたちを取り巻くインターネット環境で何が起きているのか。

総務省の「通信利用動向調査」(平成17年)によれば、インターネット利用人口は8,529万人であり、人口普及率は66.8%に達している。また、子どもたちが携帯電話を通じてインターネットに触れる機会が急速に広がっている。平成17年にNTTドコモモバイル社会研究所が実施した調査では、高校生の携帯保有率は実に96.0%にも上っている。中学生で66.7%、小学生で24.1%、であり、年々数字は上昇すると予測される。

また、2005年の(社)日本PTA全国協議会の調査によると、インターネット接続機能が付いている携帯電話を所有している小学生は50%以上、中学生では75%以上という回答結果が報告された。親が子どもに買い与えている携帯電話は、もはやインターネットそのものであり、多くの子どもたちにとってごく身近な手放すことが難しい日常の道具になりつつある。

他方で、携帯電話には、わいせつ、暴力はおろか、犯罪を誘発するものまで、子どもたちにそのまま見せたくない情報が氾濫している。このため、多くの子どもたちがインターネット上の犯罪に巻き込まれかねない状況は、ますます悪化している。現に、警察庁によれば、平成18年中の出会い系サイトに関連した犯罪検挙件数は1,915件(前年同期比21.1%増)、被害に遭った子どもは1,153人(同8.7%増)となっており、その大半は携帯電話を使用して被害に遭ったものである。更に、メール依存やメール中毒と言われるように携帯電話に半ば支配された生活をしている子どもたちも少なくない。

このように、私たち親、大人がかつて経験したことのない新たな危機が子どもたちに迫っているのだ。

また、携帯電話やパソコンからインターネットを使っている子どもの62.1%が家庭でのルールは何も決めていないと回答し、保護者の49.2%が何もせず、自由に使わせていると回答している。(「バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守るために 最終報告書」警察庁 平成18年12月)

子どもの被害を防ぐためには、まず親がよく勉強し、携帯電話を持つ必要性や使い方などについて子どもとよく話し合うことが大切なことに異論はないと思う。ただ、子どもたちは「友だちが使っているし、フィルタリングのついているものなんて恥ずかしい。」と主張することが多く、これに根負けする家庭も少なくない。そこで親も、先生も地域の大人も足並みを揃えて、「そんなことはない。お父さんたちも皆でよく話し合ったが、子どもの持つ携帯電話は、持つとしても必要な機能があれば十分だ、という意見が大半だった。」と子どもたちに力強く応えていく必要がある。親、学校、事業者及び地域社会の大人達が手を携えて“子どもたちを大切にする”一步踏み出した取り組みを進めることができ、子どもたちに対する大人の責任ではないだろうか。

続発する子どもを巻き込んだ事件、絶たれた尊い命から私たち大人は学び、明日は我が家、わが子に降りかかるかもしれない未来社会の担い手を失いかねないという思いを共有し、事件の再発を許さない「おやじ」の覚悟を示し、ネット社会を安全で安心な環境に整えていく姿を見せていく必要がある。

このような思いから、おやじ日本は、子どもの安全で安心なインターネット環境を整えるために、インターネット安全運動として“iS運動(インターネットセーフティ運動)”を推進します。「おやじ日本」の会員は勿論、多くの方々のご参加を願っています。

「Let's start “iS movement” (アイ エス ムーブメント)」

平成20年1月

おやじ日本会長 竹花 豊
携帯・インターネット安全運動担当副会長 上田和俊
永井正直
おやじ日本一同



83運動の広がり コンビニへも…

午前8時は子どもの登校時間、午後3時は下校時間です

83運動は「子どもを見守ることを大人の生活の一部にしていこう」

という運動です。例えば、散歩や買い物、草花への水遣りなどの外での用事を、子どもの登校時間（朝8時）や下校時間（夕方3時）に集中して行えば、子どもたちの姿が自然に大人の目に入るようになります。通学路はもちろん、公園やショッピング街などの子どもたちが集まりやすい場所に、大人の目を、日常的に向けていくことが、子どもの地域での安全を見守ることにつながります。おやじ日本では、平成18年春から、83運動を推進し、実施状況や実施例の情報を全国に発信しています。83運動を全国に広げていきましょう。

全国展開のコンビニエンスストアセブンイレブンは、83運動に協力し、従業員が掃除をしながら子どもたちに声をかける運動を開始しました。

タイム・コンビニエンス（時間の利便性）を提供するセブンイレブンは、年中無休で営業することを基本とし、深夜でも明かりがともり、店内には従業員がいます。そんな特徴を生かし、各店舗を“まちの安全・安心の拠点”にしていく取り組み「セーフティーステーション」活動を、2005年10月から各店舗で実施しています

（セブンイレブンのホームページより）

家庭や学校から企業や商店へも活動が広がっていくのは、とても心強いことですね。

東京の加藤さん

月曜から金曜日まで毎日、雨の日も風の日も子どもたちの登下校時間に、近所の横断歩道で、子どもたちが事件や事故に巻き込まれないように見守っています。もちろん、帽子には、缶バッヂをつけてます！

神奈川の田中さん

グループを作り、交代制で登下校時のパトロールを実施中です。私は月2回くらいの参加です。職場でも、83運動のポスターを張って、話題にしています。

東京の前田さん

親子キャンプの時に、テントサイトにポスターを貼って、83運動の趣旨を説明しています。土日は、近くに出かけるときも、帽子に缶バッヂをつけて歩いていますよ！

千葉の浅野さん

勤務先でも、缶バッヂを背広につけて、折に触れ、話題にしています。興味を持って「おやじ日本」に参加したいと言う人も出てきました。職場にポスターを掲示したいと思っています。



右のポスターは、おやじ日本のHPからダウンロードできます。

群馬の八木さん

群馬県警では、町と協働して「83運動」を展開中です。玉村町はこれまで「3時は防犯タイム」を合言葉に、毎日午後3時に子どもの下校を見守る運動を推進していたのですが、今回市町村と連携した防犯イベントで「83運動」の推進を呼びかけました。これまでの活動がさらに広がっていくことを期待しています。

埼玉の厚東さん

学校、自治会、警察署、ケーブルテレビなどにポスターを持参して、83運動の趣旨を説明し、協力を依頼しています。ポスターを掲示板に張り出し、子ども見守りを呼びかけてくれるところが増えてきて、うれしいですね。

東京の伊東さん

少年補導員協議会のメンバーと一緒に、83運動の横断幕を作り、お祭りのパレードに参加しました。地域の皆さんに「子どもたちの見守り」をアピールできたと思います。

おやじサミットイン広島～いじめバスターズおやじの出番～ 2008年2月23日(土)、広島で、全国のおやじが熱く語り合った！

文部科学省委託事業(家庭教育支援総合推進事業)『全国おやじサミットin 広島』には、熱い思いを持った全国のおやじたち約800名が参加し、活発な議論と情報交換を行いました。おやじ日本からも14名が参加し、会場内のブースで会の活動を紹介しました。又、会に先立ち、この大会を誘致し実現に限りない夢を抱きつつ志半ばで亡くなられた名誉実行委員長・故野村洋一氏をしのび、全員で黙祷を捧げました。

(速報)

4人のパネラー
が熱弁をふる
ったパネルディ
スカッション

閉会行事では、
全員で「エイ！
エイ！オッ～！」

交流会は雪の舞う宮島で行われ、勇壮な宮島太鼓で始まりました。会場には250名以上のおやじたちが集まり、大いに盛り上りました。

各地のおやじの会との連携 (2007年10月～2月)

おやじ日本では、役員が各地のイベントに参加し、全国の「おやじの会」と情報交換や交流を行っています。

第2回おやじ千葉交流会(11/3) 豊橋おやじフォーラム(11/11) 山梨ネットフォーラム(11/18)

山梨ネットフォーラム(11/18) 福山おやじ塾(11/25) 今治おやじネットワーク(12/6)

～ 広がれ！おやじネットワーク～ (全国のおやじの会・活動紹介)

豊橋おやじネットワーク

平成18年10月1日、愛知県豊橋市中野小学校で開催された「おやじフォーラム2006」を機に発足した「豊橋おやじネットワーク」は、豊橋市の南部・南陽ブロックおやじの会の小野会長を中心に《子どもと一緒におやじも遊ぶ／子どもと一緒におやじも学ぶ／子どもと一緒におやじも育つ》を合言葉に活動しています。平成19年11月11日には「広げよう、豊橋おやじの輪」をキャッチフレーズに「おやじフォーラム2007」を開催しました。第1部では、おやじ日本、携帯電話・インターネット問題担当副会長の永井正直氏が基調講演を行い、続く第2部では、市内のおやじの会の活動報告と討論会を行って、「どうすれば責任ある“おやじ”として子どもを守れるのか」をテーマに、熱く語り合いました。豊橋のおやじたちのネットワークが更に広がっていくよう祈っています。



豊橋おやじネットワーク
をまとめる小野真会長

第5回おやじ日本全国大会 埼玉大会～広げよう、埼玉のおやじの輪～

☆日 時 平成20年6月1日(日)午後1時～4時半 ☆会 場 埼玉共済会館(JR浦和駅徒歩10分・埼玉県庁そば)

☆内 容 第1部 全員参加型パネルディスカッション 「立ち上がり！おやじ～子どもを守るおやじの力」

(予定) 基調講演講師 落合弘氏(浦和レッズハートフルクラブキャプテン・元日本サッカー代表)

アドバイザー 伊地知伸久氏(志木市おやじの会・埼玉県PTA連合会会長)

第2部 パネルディスカッション 「ケータイ問題の今」

パネリスト 宮下靖尚氏(さいたま市立大戸小学校おやじの会会長)

コーディネーター 竹花豊(おやじ日本会長 東京都教育委員 元東京都副知事)

第3部 iS(インターネットセーフティー)運動宣言

《《《大会の開催趣旨》》》

子どもたちを取り巻く社会環境を安全で安心な環境に整えていくことは、私たち大人の責務です。子どもたちが心身ともに健やかに育つて欲しいという、大人一人ひとりの願いや思いを実現するためには、大人自身が学び、行動し、その輪を社会に広げていくことが必要です。この大会では、おやじたちが子どもたちに係わるさまざまな問題を話し合い、子どもたちを守るために出来ることについて考えます。おやじたちの輪が、大きく広がることを目指して！

☆参加費無料 (大会資料代 500円)

☆参加対象 全国「おやじの会」関係者

学校・PTA関係者 関心のある方

(性別・年齢は問いません)

☆定員 500名

☆主催 おやじ日本

☆共催 埼玉おやじネット

運営会議報告 (2007年10月～2月)

2007年

- 10月20日・「放課後子どもプラン」意識調査、
財政検討、インターネット安全運動ほか
- 11月17日・インターネット安全運動、83運動
第5回全国大会、法人化に向けて
「放課後子どもプラン」意識調査、
- 12月15日・iS運動、第5回全国大会、
平成21年開催記念大会、
法人化に向けて、



2008年最初の運営会議を1月15日に開催しました

2008年

- 1月15日・iS運動、第5回全国大会、記念大会、法人化に向けて、意識調査、83運動、
- 2月16日・第5回全国大会、iS運動、「放課後子どもプラン」意識調査

☆お礼とご報告

事務局からのお知らせとお願い

文部科学省委託事業「父親の参加意識等」の調査にご協力いただき、ありがとうございました。現在、全国の1200名以上の方々から寄せられた貴重な声を集計中です。

☆賛助・支援のご協力のお願い

「おやじ日本」では、個人、企業・団体の皆様からの支援を幅広くお願いしています。賛助金は、個人1口千円、企業・団体については1口1万円から何口でも申し受けます。その他、会議室・運動場などの施設や会場の提供、物品の提供、人的支援なども大歓迎です。ご協力いただける場合には、「おやじ日本」事務局へ、FAX、郵便またはメールでご連絡ください。賛助金は、銀行振り込み、又は、郵便振替でお受けしています。

【発行及び連絡先】 おやじ日本ホームページ <http://oyaji-nippon.org/>

おやじ日本事務局情報発信ブログ <http://blog.goo.ne.jp/oyaji-deban>

事務所住所 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町1-1 渋谷区役所前駐車場地下一階 TEL/FAX (03)3462-7113

事務局 小山 洋子 desk@oyaji-nippon.org 編集担当 寺田真理子

ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます。